

京都に西日本統括拠点

京西テクノスリードタイム短縮

【立川】京西テクノス(東京都多摩市、臼井努社長)は、京都市南区に「京都事業所」を新設する。総投資額は約40億円で、2026年9月をめどに完成予定。西日本エリアを統括し、第2本社に位置付ける。電子計測器の校正・修理をはじめ主要事業を担える体制

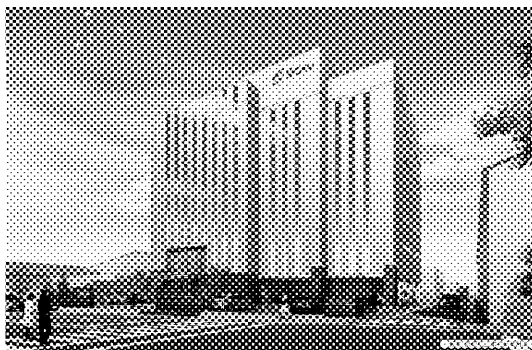
を構築し、現在は本社で対応している同エリアの業務を移管。リードタイム短縮と物流コストの削減を図る。同事業所は敷地面積約1650平方メートル、建物6階建て、延べ床面積が約4000平方メートル。既存顧客の多さや大学・研究機関などとの連携を見据え、京

都市内への立地を決めた。人事・総務などの管理部門を置き、事業継続計画(BCP)対応の一環とする。

完成時に大阪事業所から23人进行し、事業を開始する。その後、新規採用を進め、29年には87人まで増やす計画。

同社は医療、計測、情報・通信などを重点分野と捉え、電子機器

10%程度だが、同事業所の稼働などにより29年に35%まで伸ばす。



▲西日本エリアを統括する京都事業所(イメージ)

のメンテナンスサービスを手がける。23年9月期の売上高は144億6000万円。現在、売上高全体に占める西日本エリアの比率は

10%程度だが、同事業所の稼働などにより29年に35%まで伸ばす。